

平成24年度第3回桑名市入札監視委員会議事録

日 時 平成25年2月21日（木） 10：00 ～ 11：20

場 所 桑名市役所3階第2会議室

出席者 桑名市入札監視委員会委員（5名）

東川 薫（委員長）

伊藤由美子（副委員長）

赤木 邦男

佐藤 久善

藤田 素弘

事務局（6名）

城田 直毅（総務部長）

近藤 浩（契約監理課 課長）

加藤周太郎（ ” 主幹）

丹羽 孝至（ ” 課長補佐兼調達係長）

伊藤 隆光（ ” 課長補佐兼契約係長）

服部 博美（ ” 契約係）

発注担当課（9名）

内山 勝博（土木課 課長）

高井 博司（水源管理室 室長）

清水 高幸（ ” 管理係長）

中村 秀俊（ ” 室長補佐）

梶 哲男（水道課 課長）

根本 秀雄（桑名駅周辺整備事務所 所長）

西田 勝彦（ ” 計画係長）

森 祥和（ ” 工務係）

小林 清巳（建築住宅課 課長）

事 項

1 挨拶（開会）

【事務局】

大変お待たせをいたしました。定刻でございますので、ただいまから平成24年度第3回桑名市入札監視委員会を始めさせていただきますと思います。

委員の皆様には、ご多用の中、ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。ご審議のほうをよろしくお願ひしたいと思います。

さて、本日の会議は一般公開となっておりますけれども、本日、傍聴の希望をされる方はお見えになっておりません。また、途中で傍聴される方がお見えになる可能性もありますので、その時点で傍聴の可否についてお諮りをさせていただきたいと思います。

改めまして、会議を始めさせていただきます。

本日の議事につきましては、お手元にお配りいたしました事項書のとおりでございますので、よろしくお願ひいたします。

なお、本委員会は入札監視委員会条例第5条の規定を満たし、有効に成立しておりますことをご報告申し上げます。

それでは、最初に、総務部長からご挨拶を申し上げます。

【事務局】

それでは、改めまして、おはようございます。

本日は、平成24年度第3回桑名市入札監視委員会を開催いたしましたところ、委員の皆様には、年度末の何かとご多忙の中、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。本日もお手元の事項書に基づきご審議をお願いしておりますが、ご審議に先立ちまして、本年度の本市における入札、契約制度の運用状況について2点ご報告を申し上げます。

最初に、昨年度の11月から導入をいたしております変動型の最低制限価格制度につきましては、今月の4日に東川委員長にもご参加をいただきまして、本年度の入札結果に基づき、制度の検証を行っております。検証の結果につきましては、現在の変動型最低制限価格制度を今後も継続的に検証を行う中で次年度以降も引き続き運用することとなっております。

次に、本年度から試行的に実施をいたしております低入札価格調査制度による入札につきましては、本日の抽出事案も含め、本年4件の入札を実施いたしております。この制度による案件につきましても、工事品質の確認を含め、制度の検証を進めて、次年度以降の対象案件の拡大を検討して参りたいと考えております。

この2つの制度も含めまして、引き続き本市の入札制度が公平で透明性、競争性が発揮される制度になるよう常に見直しを行って参りたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、本日の議事につきまして改めてご審議をいただきますようお願いを申し上げ、簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】

続きまして、東川委員長よりご挨拶を頂戴いたしたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

【委員長】

本日は積雪に見舞われ、足元の悪いなか、皆様にはお集まりいただきました。

先日、変動型最低制限価格制度を検証する委員会がございまして、ポイントは応札してきた業者の何者以上を最低制限価格算出の対象とするのか、というところですが、今年度の実績では、変動する割合がちょうどよいところ合いになる数の業者が応札してきているので非常にうまくいっているという状況ですが、現在指名停止になっている業者が複数者おられますので、状況に応じて見直しをしていく必要があるということでした。既に部長のほうから挨拶がありましたけど、制度のほうは常により良い方向へと改善をしていかなくてはいけないと思っております。

それでは、本日もよろしくお願いします。

【事務局】

委員長、どうもありがとうございました。

それでは、議事進行でございますが、入札監視委員会条例第4条の規定に基づきまして、東川委員長にお務めをいただきたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

2 議 事

(1) 入札及び契約手続きの運用状況について

- ① 指名停止の状況**
- ② 談合情報の状況**
- ③ 入札及び契約の状況**

【委員長】

それでは、事項書に従って議事を進めて参りますので、よろしくお願いいたします。

最初に、事項書の（１）入札及び契約手続きの運用状況につきまして、事務局のほうからご報告をお願いします。

【事務局】

それでは、議事の（１）入札及び契約手続きの運用状況についてご説明させていただきます。

以降、座って説明させていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

最初に、①の指名停止の状況でございますが、お手元の資料１ページ、２ページをご覧ください。

今回の審議の対象期間であります平成２４年９月から１２月、この４カ月の間に、全部で８件、合計９者に対しまして指名停止の措置を講じております。この中から桑名市が独自で指名停止を講じた案件についてご報告させていただきたいと思います。

１ページの右から２つ目をご覧ください。

内容といたしましては、不正または不誠実な行為で、指名停止業者は株式会社岸野屋でございます。指名停止の理由ですが、株式会社岸野屋は平成２４年４月２５日に契約締結した指定ごみ袋（可燃大）において納品された物品に一部不良品があり、契約で定めた納期限までに物品を納めることができなかったというものでございます。これが桑名市の指名停止基準の不正または不誠実な行為に該当するということで、１カ月の指名停止措置を講じてございます。

あとの７件につきましては、三重県等の指名停止に準じて、桑名市においても指名停止を講じた案件でございます。

続きまして、②談合情報の状況でございますが、本対象期間中には特にありませんでした。

最後の③入札及び契約の状況でございますが、資料の３ページから６ページに示したとおりです。

以上でございます。よろしくお願いします。

【委員長】

それでは、ただいまのご報告につきまして、ご質問、ご意見等はございませんでしょうか。

【委員】

特になし。

（２） 抽出事案の審議について

抽出事案１ 市道坂井多度線道路改良工事（北工区）

【委員長】

それでは、次の事項書の（２）抽出事案の審議についての項目に移りたいと思います。

審議に先立ちまして、この５件の案件について説明を得るため、入札監視委員会条例第６条の規定に基づき、関係者の出席を求めます。よろしくお願いします。

それでは、今回の５件の抽出理由につきまして、藤田委員のほうから簡単に説明をお願いいたします。

【委員】

今回の５件は、入札方法につきましては、一般競争入札、随意契約、低入札案件もありましたので、そのあたりを考慮して選びました。あとは発注金額が高いものや、工事業務種目が幾つかばらつくようにとか、いろんな種類のものが入るようということで選定させていただきました。

【委員長】

ありがとうございます。

それでは、事務局のほうから抽出案件につきましてご説明いただき、各委員よりご質問、ご意見等を頂戴いたしたいと思います。

審議に当たりましては、参加資格条件やその設定方法などを審議の対象といたします。

それでは、第１案件、市道坂井多度線道路改良工事（北工区）につきまして事務局から説明をお願い

します。

【事務局】

それでは、抽出事案の1つ目を説明させていただきます。

資料の8ページをご覧ください。

工事名は、市道坂井多度線道路改良工事（北工区）でございます。

契約方法は、事後審査型条件付の一般競争入札としてございます。

工事概要及び入札参加資格要件につきましては、9ページをご覧ください。発注公告を添付させていただいております。

まず、工事の概要でございますが、施工延長が559メートル、舗装工が5,609平米等となっております。

入札参加資格要件等につきましては、特定の土木工事業の許可を有する市内業者としてございます。経審点数は740点以上で、完成工事高が予定価格の2分の1以上あること。また、平成14年度以降、官公庁元請の土木一式工事の施工実績があること、技術者要件につきましては、現場代理人及び監理技術者を専任配置することとしてございます。

続きまして、資料8ページに戻りまして、入札の執行日でございますが、平成24年10月19日、入札参加業者数は9者、なお、1者辞退してございます。契約金額は税抜きで5,170万円となっております。

入札の経緯及び結果でございますが、9者が応札し、開札前に1者が辞退いたしております。開札の結果、2者が最低制限価格を下回ったため失格、最低制限価格以上かつ予定価格の範囲内で最も低い価格で応札した業者を落札候補者としてございます。その後、入札参加資格を審査した結果、適格であったため、当該業者を落札者と決定し、契約を締結してございます。

なお、資料の10ページに入札の経過表及び資料の11ページに最低制限価格の算出根拠表を添付しておりますので、あわせてご覧いただきますようお願いいたします。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

【委員長】

それでは、ただいまの説明につきまして、委員のほうから質問ですとか、ご意見等はございますか。

【委員】

毎回出る話ですけども、今回の落札率は84.87%、一番高い業者は5,786万5,000円で、率にすると94.99%で応札しています。この業者を除きますと、失格以外の者は84.87%から84.99%での応札で、金額では四、五万しか変わらない価格ですけども、応札価格がほぼ横並びになることは、容易にあり得ることなのですか。また、最後のほうの3者は全く同じ価格で応札しておりますが、入札の談合はなかったというお話でしたけれども、その辺は事務局側としてはどのようにお考えでしょうか。

【委員長】

いかがですか。

【事務局】

土木の案件ということもありますし、おそらく建築工事と違いまして、情報公開等で過去の設計書の単価等を参考にすることによって、同じような積算結果になることはあると思います。

【担当課】

先ほどの説明の補足ということで、今回の工事も土木一式工事としては、一般的な工事となっております。業者は、情報公開制度を利用し、類似設計図書等の分析や研究をされてみえますし、積算ソフトも普及していることから、基準価格を算定するのは不可能ではないと思っております。

金額に多少のばらつきがあるのは、業者の考え方による違いであると推測いたします。

以上でございます。

【委 員】

了解しました。

【委員長】

積算ソフトがあるということでしたが、どのような仕組みで金額が弾き出されるのですか。

【担当課】

例えば単価を入れて上から積み上げていくソフトや、予定価格から計算して予測するような下から積み上げていくソフトがあります。

【委員長】

わかりました。

他にはどうでしょうか。

【委 員】

最低制限価格算出対象入札者というのは、失格したところを含め、低いほうから5者を選ぶという基準でしょうか。

【事務局】

最低制限価格の算出対象入札者数について、11ページの資料で説明させていただきます。基準価格（税抜き）4,932万円と書いてございますけれども、この基準価格以上で、なおかつ予定価格（税抜き）6,091万1,000円の範囲内での入札者を有効な札とします。この場合、1者目が4,935万9,000円で、1者目から基準価格を上回っており、8者目の5,786万5,000円も予定価格の範囲内であるため、有効な札が8者あるということになります。その8者に10分の6を掛けた数が最低制限額算出対象の入札者数ということになります。よって、4.8者、四捨五入して、5者が最低制限価格の算出対象入札者数となります。基準価格以上で、基準価格に最も近いほうから5者の入札の平均額が最低制限価格となります。表中ではNo.1からNo.5の入札金額の平均額が最低制限価格となります。

【委 員】

わかりました。

【委員長】

今後、最低制限価格の制度を見直す場合、算出対象者数を有効な札の10分の6としている点について調整をしていくわけですね。

【事務局】

例えば今回の場合、有効な札が8者ありますので、算出対象入札者数は5者になります。算出対象入札者数が5者以上というのが変動条件ですので、あと、1者でも有効札が少なかったならば、変動せず、基準価格がそのまま最低制限価格の値となっていたわけです。委員長が言われましたように変動型の採用割合、影響額等を考慮しながら、検討していく必要があります。

【委 員】

平均をとる割合を有効札の10分の6としている理由は。

【事務局】

他市町でも、変動型の最低制限価格制度を採用しているところがありまして、全体の応札者の中で少ない業者の平均をとってもあまり意味がない数字ということと、あまり多過ぎても高い入札価格のところまで拾いに行ってしまうということで、大体の目安として過半数を上回る6割の平均値が最も適切と考え、他市町でもこのような運用をしているところです。

【委 員】

基準価格以上の入札の平均額を最低制限価格とするということは、入札時は失格ではないけれども、変動して最低制限価格を下回った業者は失格となってしまうので、最低価格が若干高くなりますよね。

【事務局】

そのとおりです。以前の最低制限価格制度は、今回でいう基準価格、いわゆる公契連モデルから算出

された価格を最低制限価格としていましたので、現在の変動型では最低制限価格は高くなる傾向にあります。

【委 員】

もう一つ質問させていただきますが、この最低制限価格を設ける理由というのは、工事品質を確保するためだと思うのですが、その制限価格を2つ設ける理由というのは。

【事務局】

委員が言われるとおり、工事品質を確保するためということで、中央公契連モデルから算出された基準価格を下回った場合は失格としております。

また、去年の競売入札妨害事件を受けて、最低制限価格が開札するまで分からない制度を構築することを目的に、今の最低制限価格制度へ改正しております。この主旨からしても、価格が事前に漏えいしないことに重きを置いた結果ですので、いたし方ないと考えております。

【委員長】

結果としてやや落札金額が上がるということは、市としては、税金を余分に使うことになりますよね。

【事務局】

おっしゃるとおりで、今後の検討課題として考えてございます。

【委 員】

入札価格が上がっていく可能性はありませんか。

【事務局】

可能性はあります。ただ、入札した案件全部が変動するということであれば、委員が言われましたように、若干高目に応札してくるということも考えられますが、現行では全案件が変動するのではなく、一部は、基準価格がそのまま最低制限価格となる制度ですので、変動型を採用する割合が全体の何割を占めるのが良いのか、というところが重要になってくると思います。

【委 員】

よくわかりました。ありがとうございます。

【委員長】

他にはいかがでしょうか。

【委 員】

特になし。

【委員長】

それでは、この案件につきましては、問題なしということにしたいと思います。

抽出事案2 額田・町屋水源地機械・電気計装設備工事

【委員長】

次に、第2案件、額田・町屋水源地機械・電気計装設備工事について説明をお願いいたします。

【事務局】

資料の12ページをご覧ください。

工事名は、額田・町屋水源地機械・電気計装設備工事でございます。

契約方法につきましては、事後審査型条件付の一般競争入札で、この案件については低入札価格調査の試行案件としてございます。

工事概要及び入札参加資格要件につきましては、資料13ページの公告をご覧ください。

まず、工事概要でございますが、額田1号、2号水源地の電気計装設備工事一式、機械設備工事一式、場内配管工事、φ150から300一式、場内整備工事一式等となっております。

入札参加資格要件ですが、2者結成による特定建設工事共同企業体でのみの入札参加可としてございます。JV結成の要件として、代表構成員については、特定の水道施設工事業の許可を有する者で、所在地要件は県外業者まで、経審点数1,000点以上、完成工事高は予定価格の2分の1以上必要、同種工事实績につきましては、平成14年度以降、官公庁元請で公告の①から③に示す全ての工事の実績を有することとしてございます。また技術者の要件につきましては、現場代理人及び監理技術者を専任配置すること、その他の技術者としたしまして、1級電気工事施工管理技士以上の資格を有する者を配置することとしてございます。なお、この資格者につきましては、監理技術者との兼務は可能としております。

続きまして、第2構成員の入札参加資格要件でございますが、特定の水道施設工事業の許可を有する市内業者、経審点数につきましては450点以上、技術者要件につきましては、専任の監理技術者を配置することとしてございます。その他の技術者要件として、①から③に示すいずれかの有資格者を別途配置することとしてございます。なお、本技術者の所属につきましては、代表構成員、第2構成員の別は問わないこととしています。

さらに、低入札価格で契約を締結する場合や、特定建設工事共同企業体の構成に関する事項につきましては、公告に示すとおり別途要件を定めております。

資料12ページへ戻りまして、入札の執行日でございますが、平成24年11月2日、入札参加業者は1共同企業体でございました。契約金額は税抜き4億5,260万円、入札の経緯及び結果につきましては、1共同企業体から入札参加資格審査申請の提出があり、資格審査会において審査した結果、適格であったため、当該企業体の入札参加を認定してございます。この1企業体のみからの応札があり、開札の結果、調査基準価格以上かつ予定価格の範囲内での応札であったため、当該企業体を落札候補者としております。その後、同種工事实績等の要件を審査したところ、要件を満たしていると判断されたため、当該業者を落札者と決定し、後日契約を締結しております。

なお、資料15ページに入札の経過表を添付しておりますので、合せてご覧いただきますようお願いいたします。

事務局からは以上でございます。よろしくお願いいたします。

【委員長】

それでは、ただいまの説明につきましてご質問、ご意見等はございませんでしょうか。

【委員】

入札参加業者が1企業体だけだった理由について、分かれば教えてください。

【担当課】

水道課です。

推測ではありますが、発注時期が年度の後半、11月でございましたので、業者側も配置技術者の確保が難しかったためと考えられます。また、JV発注でございましたので、第2構成員は、市内業者としておりますことから、代表構成員と第2構成員の組み合わせがうまく成立しなかったのではないかと考えております。

【委員】

共同企業体の構成員について、両方とも市内業者ですか。

【事務局】

代表構成員については、地域要件について縛りは設けておらず、第2構成員については、市内業者のみと限定しております。

本案件に入札参加した「荏商・カキトー特定建設工事共同企業体」は、荏原商事株式会社中部支社と株式会社カキトーによる共同企業体で、代表構成員の荏原商事株式会社中部支社は県外業者となります。

【委員】

第2構成員の要件は市内業者ということですが、第2構成員として要件を満たす市内業者というのは何者程度ありますか。

【事務局】

発注前に調べたところ、9者ありました。

【委 員】

代表構成員と第2構成員の受託金額の割合について条件はありますか。

【事務局】

資料13ページの発注公告下段をご覧ください。特定建設工事共同企業体の構成に関する事項の(2)の中で各構成員の出資比率を最低30%以上とすることを明記しております。

今回の受注者の出資比率は、荏原商事が65%、カキトーが35%となっております。

【委 員】

各構成員の出資比率を最低30%以上しているのは、何かで定めているのですか。

【事務局】

特定建設共同企業体の取扱要綱がありまして、構成員の最低出資比率は30%以上と規定しております。

【委 員】

先ほど、第2構成員に成り得る市内業者の数をお伺いしましたが、代表構成員として資格を満たす市内業者は何者ですか。

【事務局】

代表構成員の要件を満たす市内業者というのはおそらくないと推測しております。

【委 員】

ちなみに、準市内、県内は。

【事務局】

準市内は2者、県内業者が17者、県外が47者ということで、全部で66者程度はあります。

【委員長】

他はどうでしょうか。

本案件が低入札価格調査試行案件ということで、制度の概要について説明願います。

【事務局】

資料15ページの入札経過表をもとにご説明させていただきます。調査基準価格（税抜き）というのは、変動型最低制限価格制度におきます基準価格、要は中央公契連モデルから算定される価格ですが、この3億8,914万を下回った場合は、工事の品質を損なう恐れがないか、低入札価格の調査を実施することになります。基準価格を下回った場合、即失格とならない点が他の一般競争の案件と異なります。今回は、応札額が調査基準価格を上回っておりますので、低入札価格の調査は実施しておりません。

【委員長】

わかりました。

では、この案件につきましては、問題なしということにしたいと思います。

抽出事案3 南部水源地他遠方監視装置緊急修繕工事

【委員長】

続きまして、第3案件、南部水源地他遠方監視装置緊急修繕工事について説明をお願いします。

【事務局】

抽出事案の3番目でございますが、資料の16ページをご覧ください。

工事名は南部水源地他遠方監視装置緊急修繕工事でございます。

契約方法は1者からの見積りによる随意契約となっております。

工事の概要でございますが、南部2号井遠方監視装置子局一面、南部2号井遠方監視装置親局ユニット一式等となっております。

見積合せ日でございますが、平成24年10月31日、指名業者は株式会社三重日立でございます。

随意契約及び選定の理由でございますが、資料17ページ随意契約理由書をご覧ください。

本工事は8月11日に発生した落雷によって故障を生じた南部2号井及び赤尾配水場並びに関連施設（上野浄水場、南部水源地）の遠方監視制御装置を緊急復旧するための工事を施工するものです。

指名業者は、本機器製作メーカーの日立製作所より委任を受けた保守管理業者です。既設の設備と密接不可分の関係にあり、同一業者以外の者に施工させた場合、既設の設備等の仕様に著しい支障がある設備の復旧工事であるため、株式会社三重日立への随意契約が妥当と判断いたしました。

見積合せの結果でございますが、株式会社三重日立から見積書を徴収した結果、予定価格の範囲内であったため、後日契約を締結しております。契約金額は税抜き3,599万円でございます。

事務局からは以上です。

【委員長】

それでは、この説明についてご質問、ご意見をお願いします。

【委員】

修繕工事というのは金額の見積りが難しいと思いますが、予定価格はどのように算出されたのですか。

【担当課】

緊急修繕ということで、当該業者より見積書を提出してもらい、3回の金額交渉をさせていただきました。その中で、最低金額を予定価格として入れさせてもらっています。当初の見積もりから見ると、今回の落札率としては72%であったと思っております。

【委員】

南部水源地のこの遠方監視装置の修繕や改修においては、今後も随契で契約するのですか。例えば既存のメーカー品のものを全く新しいものに変えて、他の業者に受注させることも可能かと思いますが。

【担当課】

その点について、検討はいたしました。システム自体が各社独自に研究されたもので、他のメーカー品のものでは、互換性が難しいという現状でありました。

やはり既存のメーカーのものを取り替えていく方針になると思います。

【委員】

先ほど、緊急性を伴う修繕ということで説明がありましたが、緊急性という理由と、他の業者に施工させると不都合が生じるため、契約の相手方が特定される、という2つの理由による随意契約という解釈でよろしいでしょうか。

【担当課】

そのとおりです。

【委員長】

差し支えなければ、どれくらい金額交渉されたのか教えてください。

【担当課】

当初の見積りが税込みで5,237万円、その後3,780万程度まで交渉させていただきました。

【委員】

その内訳の中には、機器代がある程度入っているのでしょうか。

【担当課】

遠隔のテレメーターの機械費用が含まれておりまして、金額は4,360万円となっております。そこに工事費を含めて4,988万円という内訳でございます。

【委員長】

他にはよろしいでしょうか。

【委員】

なし。

【委員長】

それでは、この案件につきましては、特に問題なしということにしたいと思います。

抽出事案4 （仮称）桑名市健康増進防災等複合施設建設工事設計業務委託

【委員長】

それでは、次に、第4案件、（仮称）桑名市健康増進防災等複合施設建設工事設計業務委託について説明をお願いします。

【事務局】

抽出事案の4つ目でございますが、資料19ページをご覧ください。

業務委託名は（仮称）桑名市健康増進防災等複合施設建設工事設計業務委託、契約方法は事後審査型条件付の一般競争入札でございます。

業務概要及び入札参加資格要件でございますが、資料の20ページ、発注公告をご覧ください。

業務概要は、桑名市健康増進防災等複合施設建設工事に伴う設計業務一式となっております。

施設の概要でございますが、敷地面積が約1万2,513平米、建物の規模につきましては、鉄骨造2階建て、延床面積は約1,000平米となっております。

入札参加資格要件は、建築士法による登録業者であること。所在地要件については県内まで、技術者要件については、1級建築士で実務経験を有する者を管理技術者として配置することとしております。同種業務履行実績については、平成14年度以降、官公庁元請で建築設計の業務の実績を求めています。

資料19ページに戻りまして、入札の執行日は、平成24年9月21日、入札参加業者数につきましては14者、契約金額は税抜きで1,544万4,000円でございます。

入札の経緯及び結果でございますが、14者が応札し、そのうち5者が最低制限価格を下回ったため、失格としております。開札の結果、最低制限価格以上、かつ予定価格の範囲内で最も低い価格で応札した業者を落札候補者としております。その後、入札参加資格要件を審査した結果、適格であったため、当該業者を落札者と決定し、契約を締結しております。

事務局からは以上でございます。

【委員長】

それでは、ご質問をお願いいたします。

【委員】

先の質問と同じような形になりますが、2番目の業者、失格になっていきますけれども、これが79.16%、13番目も79.95%ということで、1%に満たない金額差の中に12者の応札があるわけですが、設計業務でも土木工事と同じように積算は可能なのでしょうか。特に今回は1,500万円と高額な案件であると思いますが。

【担当課】

建築住宅課です。

コンサル業務においても、設計業務積算基準という国交省が監修した図書がありまして、仕様書に基づいて積算することが可能です。金額に多少のばらつきがあるのは、開札の結果、最低制限価格が変動する可能性を考えて、基準価格により近い付近でそれぞれ応札されたのかと思います。

【委員長】

他にありませんか。

【委 員】

落札した業者は市内の業者ですか。

【事務局】

県内業者です。

【委 員】

公共事業というのは経済波及効果も考えて発注するものだと思いますが、市内業者が受注することによって、市内の労働者にも給料が与えられますし、受注業者から市に税金が納められますよね。そういうのも含めると市内も県内も県外の業者を同一に並べて価格競争させるのではなく、市内業者に有利な条件を付しても良いのではないかなと思うのですが、どうでしょうか。

【事務局】

確かに言われるとおりだと思います。ただ、コンサル業務におきましては建設工事と違いまして、市内業者の数が多くありません。建築関係のコンサル会社はまだ多いほうで、市内業者で22者ということになっております。当然財政的には市内でお金が回るほうがいいですので、市内業者への優先発注が望まれるところですが、発注に当たっては、発注基準を定めておりまして、設計コンサルタント業務の発注については、予定価格500万未満の業務は市内発注としております。このように基本的には市内業者を優先した発注を行い、金額の高い案件については、競争性とか技術的なものを考えて地域要件を広げるというような形で発注を行っております。

【委 員】

わかりました。しかし、もう少し市にお金が落ちるよう工夫される余地はあるのかなと思います。

【事務局】

また、その辺も含めて他市の状況等も踏まえて調査、研究に努めたいと思います。

【委 員】

建築コンサル業務については、500万未満は市内業者へ発注すると言われましたが、例えば500万という基準を1,000万とか2,000万に上げるなどして、高額な案件でも市内業者に受注させるように、発注基準を見直すという可能性はありますか。

【事務局】

そのあたりも毎年、発注基準を見直しておりますので、考えられる範囲ではあります。

【委 員】

確かに500万未満は市内発注にするのも1つの考えですが、例えば、500万以上も市内発注とすることによって、市内業者の育成にもなりますし、他市に本店をもつ業者が桑名市にも営業所を構えようという誘発にもなって、結果的に桑名市に優良な業者が集まってくるというようなことも考えられるのではないのでしょうか。

【事務局】

貴重なご意見として、検討課題とさせていただきます。

【委員長】

それでは、この案件につきましては特に問題はありますが、いろいろとご意見も出ましたので、今後その検討もしていただきたいと思います。

抽出案件5 施工計画他修正業務委託

【委員長】

それでは、最後の案件、施工計画他修正業務委託につきまして説明をお願いします。

【事務局】

最後の案件でございますが、資料23ページをご覧ください。

業務委託名は施工計画他修正業務委託でございます。

契約の方法は、1者見積りによる随意契約です。

業務の概要は、施工計画他修正業務一式となっております。

指名業者、契約の相手方でございますが、玉野総合コンサルタント株式会社三重事務所となっております。

随意契約の理由、また、業者選定の理由でございますが、資料の24ページ随意契約理由書をご覧ください。

本業務の内容は、桑名駅西土地区画整理事業の全体スケジュールを把握する目的において、平成19年度に作成した工事施工計画等の成果について、事業計画の変更や事業の進捗状況等により見直しを行うものです。契約の相手方は、過年度に施工計画作成業務を行っており、また、設計関係業務及び換地設計業務等の実績もあることから、玉野総合コンサルタント株式会社三重事務所と随意契約にて締結しております。

資料23ページに戻りまして、見積合せ日は、平成24年11月9日、契約金額につきましては税抜き400万円、玉野総合コンサルタント株式会社三重事務所から見積りを徴収した結果、予定価格の範囲内であったため、後日、契約を締結しております。

以上です。よろしくお願いいたします。

【委員長】

それでは、それぞれ質問等ありましたらお願いします。

【委員】

今後、駅西の区画整理事業の計画に修正が必要になる都度、同一業者に委託するということでしょうか。駅西も区画整理事業を長期に渡って取り組んでみえますので、外部委託せず、行政内部で計画の修正業務を行うことは、難しいのでしょうか。

【担当課】

桑名駅周辺整備事務所です。

外部委託せず、我々職員のみで施工計画等の業務を行うことについてお答えしますが、やはり過去のデータとか、今後の計画、これらを整理して事業の施工計画をつくっている業務ですので、私どもの職員数の不足や、システム関係もございますので、引き続きコンサル業者に発注していきたいと考えております。

【委員】

行政内部ではこれまでのノウハウや蓄積されたデータがあっても不可能だということですか。

【担当課】

土地区画整理事業の行政業務というのは非常に珍しい業務でございまして、事業主体が市というのは実績も多くありません。職員自体も経験が豊富であるというものではございませんので、その点ご理解いただきたいと思います。

【委員】

了解しました。

【委員】

他にはいかがでしょうか。

【委員】

同一業者に委託するにしても、一定の期間ごとには契約方式を見直すことも必要かと思います。コンサル業務でも、最近では10年、20年、ずっと随契で契約してきた業務を、他の業者に委託するという事例は聞いておりますが。

【担当課】

設計業務とか、測量業務においては、一般競争に切りかえております。この施工計画には換地設計とか換地計画業務という区画整理の専門の業務がありまして、過去のデータ等が非常に重要な業務でございます。今後、発注基準等の見直しの中で検討させていただきたいと思います。

【委 員】

今回の業務を他社に委託したら、どれくらいコスト増になるか、検討されたのでしょうか。

【担当課】

今回の業務につきましては、他社の見積もりはとっておりません。

【委 員】

随意契約する理由というのは、その業者に委託することによって、コスト削減が得られることにあると思います。一度、他業者の相見積もりをとって、コスト削減が見込まれた上で随意契約に持つていくのが良いと考えますが、いかがでしょうか。

【担当課】

当初の施工計画等々作成の業務を発注する段階においては、委員がおっしゃられた方法をとっております。今回の業務は、経年変化等々による修正を行うというのが目的でしたので、他社からは見積もりをとっておりません。

【事務局】

本案件については、コスト削減を見込んでの随意契約ではなく、当該業者以外に委託することが難しい業務ということで、1者の随意契約としたのではないですか。

【委 員】

それは解釈としては逆のような気がします。これまでの業務に関する情報を全部市が引き取って、他の業者に引き渡すことは可能だと思います。しかし、他の業者に一から委託し直すとすると、非常にコストがかかるということ、職員の人員不足も含めて、同一業者に委託することにより、費用を安く抑えることができるといった説明でなければ、おかしいと思いますが。

【担当課】

委員のおっしゃるとおりだと思いますので、今後はそういった確認にも努めたいと思います。

【委員長】

他にありますか。

それでは、この案件につきましては問題はなしといたしますけれども、特に随意契約の場合は、説明責任が十分に果たされることが重要だと思いますので、どういう理由で随意契約にしたか、そこを明確にしていただければと思います。

それでは、これで今回の抽出事案についての審議を終了いたしたいと思います。

(3) その他

【委員長】

他に事務局のから何かございますか。

【事務局】

特にありません。

【委員長】

それでは、これで平成24年度第3回の桑名市入札監視委員会を終了させていただきたいと思います。本日の審議概要は後日事務局にてまとめていただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

3 閉会